

四半期報告書

(第35期第2四半期)

自 平成28年7月1日

至 平成28年9月30日

株式会社ルネサンス

第35期第2四半期（自平成28年7月1日 至平成28年9月30日）

四半期報告書

- 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

株式会社ルネサンス

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	9
1 【株式等の状況】	9
2 【役員の状況】	11
第4 【経理の状況】	12
1 【四半期連結財務諸表】	13
2 【その他】	21
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	22

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年11月8日

【四半期会計期間】 第35期第2四半期(自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)

【会社名】 株式会社ルネサンス

【英訳名】 RENAISSANCE, INCORPORATED

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長執行役員 吉田正昭

【本店の所在の場所】 東京都墨田区両国二丁目10番14号

【電話番号】 03(5600)5312

【事務連絡者氏名】 常務執行役員最高財務責任者 安澤嘉丞

【最寄りの連絡場所】 東京都墨田区両国二丁目10番14号

【電話番号】 03(5600)5312

【事務連絡者氏名】 常務執行役員最高財務責任者 安澤嘉丞

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第34期 第2四半期 連結累計期間	第35期 第2四半期 連結累計期間	第34期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (千円)	21,417,691	21,926,758	43,480,482
経常利益 (千円)	1,264,786	1,582,094	2,932,385
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	677,977	989,828	1,532,978
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	684,399	972,831	1,550,963
純資産額 (千円)	7,003,295	8,469,616	7,720,594
総資産額 (千円)	30,640,159	32,990,804	30,665,320
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	45.44	66.34	102.74
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	22.9	25.7	25.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,296,143	1,901,913	3,720,384
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△2,056,077	△1,777,094	△3,110,826
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	900,166	271,186	△257,221
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	801,739	1,399,277	1,023,428

回次	第34期 第2四半期 連結会計期間	第35期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日	自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	33.49	43.90

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社とRENAISSANCE VIETNAM INC.及びRENAISSANCE OLYMPIA CO.,LTD及びD I C株式会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

<経済状況>

当第2四半期連結累計期間（平成28年4月1日～平成28年9月30日）におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢の改善等、緩やかな回復基調が続きましたが、中国を始めとするアジア新興国や資源国の景気下振れに加え、英国のEU離脱問題など、海外経済の不確実性の高まりによって、為替や株価が大きく変動する等、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

<業界動向>

フィットネス業界においては、国民一人ひとりの健康増進意識の高まりとともに、顧客ニーズに特化した新たな小型業態が積極的に導入される等、活発な動きが続いております。

また、8月に開催されたオリンピック・パラリンピックでの日本人選手の活躍が後押しとなって、業界全体の会員数、利用者数は共に前年を上回るペースで推移いたしました。

さらに、6月に閣議決定された日本再興戦略2016の中で、名目GDP600兆円に向けた「官民戦略プロジェクト10」の一つに“スポーツの成長産業化”が謳われており、スポーツ市場規模の拡大や成人のスポーツ実施率の向上において、フィットネス業界はこれまで以上に牽引的な役割を果たすことが期待されております。

<当社グループの状況>

当社グループは、「わたしたちルネサンスは『生きがい創造企業』としてお客様に健康で快適なライフスタイルを提案します。」の企業理念のもと、大型総合スポーツクラブ事業を中心に事業を営んでまいりました。

昨今の急速に進む少子高齢化や顧客ニーズの多様化といった事業環境の変化を踏まえ、“「顧客感動満足」、「従業員感動満足」の実現”と中長期的な持続的成長を可能とするため、2015年度を初年度とする中期経営計画においては、「スポーツクラブ単一事業から健康をキーワードとした複合事業への転換を図る」ことを中期経営方針として掲げ、以下の①～③に重点的に取り組んでおります。

- ① スポーツクラブ事業の収益性の強化
- ② 新しい成長の柱を増やす
- ③ 持続的成長を可能とするヒトと組織づくり

スポーツクラブ事業においては、既存クラブ（新規出店や閉店等を除く、同一条件での比較が可能なクラブ）の在籍会員数が、フィットネス部門が前年同期比1.9%増、スクール部門が同4.3%増、合計で2.8%増となりました。また、全社の在籍会員数は、平成27年12月のルネサンス住道（大阪府大東市）の閉店、及び、ルネサンス福岡大橋（福岡市南区）の建て替え工事中（平成29年夏のリニューアルオープンに向けて、トレーニングジム及びスタジオのみを近隣の仮店舗で営業継続中）にも関わらず、約402千名と前年同期比1.5%増と堅調に推移しました。

平成28年4月14日及び4月16日に発生した熊本地震により、ルネサンス熊本（熊本市中央区）、ルネサンス熊本南（熊本市中央区）及びルネサンス大分（大分県大分市）の3クラブにおいて、施設の一部が損壊するなどの被害を受けました。特に熊本地域はライフラインが止まり、強い余震が続きましたが、1日も早い復旧を目指し、取引先様からの緊急支援により、施設損壊箇所の速やかな修繕を行い、一部のエリアを除き約10日後には営業を再開し、1ヶ月後に通常営業の体制を整えることができました。なお、休業期間中においては、避難されていた地域住民に対して、シャワーやお風呂を開放させていただきました。また、ルネサンス熊本のテニスコートを一時避難施設として、従業員及び関係者の皆様にお使いいただき、防災備品の備蓄等を始め、災害時に対する日頃の準備を生かすことができました。

スポーツクラブ事業の主なトピックスとしては、当社スイミングスクールに所属する持田早智選手（ルネサンス幕張）と池江璃花子選手（ルネサンス亀戸）が、第31回リオデジャネイロオリンピック競技大会の水泳日本代表に選出されました。両選手が出場した4×200mフリーリレーで8位入賞したほか、池江選手が100mバタフライで5位入賞、4×100mフリーリレーで8位入賞と活躍しました。両選手はもとより、次回、東京オリンピックに向けても、次世代の競泳選手の育成にも努めており、今夏の国内及び国際大会においては、当社所属の将来を担う選手達が好成績をおさめました。

また、「リオデジャネイロパラリンピック競技大会」においては、ルネサンス亀戸がサポートしている瀬立モモカ選手が女子カヤックシングルに出場し、8位入賞を果たしました。

さらに、一般の方々を対象に9月に「ルネサンスマスターズ水泳競技大会2016」や「ルネサンスカップ（テニス大会）」を開催し、全国から多くの会員の方々に参加いただいております。

新プログラムについては、4月に、「誰でもできる、楽しめる」をテーマに、総合格闘技の動作と躍動感のある音楽を組み合わせた、シェイプアップやストレス発散に効果的なスタジオプログラム『Group Fight』を導入しました。

また、ソニー株式会社が開発したテニスラケットに装着するだけで、使用者の打球を解析できる「スマートテニスセンサー」を、5月から全国のテニススクールに導入し、イベントレッスンを開催しました。

新しい成長の柱を増やす取り組みについては、「成長が期待される市場で、将来の収益の柱を事業として確立する」ことを目指し、新業態の開発や、国・地方自治体や他業界の企業との協業等を推進しております。

6月には、前年度より業務提携をしているサービス付き高齢者住宅を提供する株式会社コミュニティネットへ出資しました。この資本提携により、介護事業ノウハウの獲得だけではなく、単独では難しい地方創生や街づくり等にも関与できるようになり、高齢者ビジネス領域において、さらなる事業の拡大を目指してまいります。「元氣ジム」事業においては、9月にフランチャイズ第1号施設として元氣ジム仙台荒井（仙台市若林区）を開業いたしました。急速に進む高齢化社会への課題解決に向けて、直営のみならずフランチャイズビジネスとしても推進してまいります。

また、ウェブ上で食事や運動指導を提供している株式会社リンクアンドコミュニケーションと協業し、当社と法人契約している全国の企業や健康保険組合等に対して、食と運動の専門家によるICTを活用した健康ソリューションサービス『カラダかわるNavi』の展開を開始しました。

施設の状態については、4月より株式会社日立ライフが所有するスポーツクラブリラひたち（茨城県ひたちなか市）の運営業務を受託いたしました。また、4月に元氣ジム上中里（横浜市磯子区）、8月にルネサンス広島東千田（広島市中区）、9月に元氣ジム仙台荒井（仙台市若林区）を開業いたしました。

一方、賃貸借契約の満了に伴い、7月末にルネサンス広島（広島市南区）、9月末にルネサンス鶴間（神奈川県大和市）を閉店いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結会計期間末の国内施設数は、スポーツクラブ123施設（直営95クラブ、業務受託28施設※1）、小型業態施設12施設、リハビリ施設15施設の計150施設となりました。

なお、既存クラブの改装及び設備更新は、4月にルネサンス東広島（広島県東広島市）、5月にルネサンス北朝霞（埼玉県朝霞市）、ルネサンス広島緑井（広島市安佐南区）、8月にルネサンス福山多治米（広島県福山市）、ルネサンス玉島（岡山県倉敷市）、ルネサンス石神井公園（東京都練馬区）、ルネサンス亀戸（東京都江東区）、ルネサンス仙台泉中央（仙台市泉区）、ルネサンス松本（長野県松本市）において実施し、施設環境の整備と魅力向上に努めております。

持続的成長を可能とするヒトと組織づくりについては、女性活躍推進を中心としたダイバーシティの各種施策を推進し、従業員の仕事と育児の両立を支援するため、育児休職制度の見直しを行いました。

また、当社は、「お客様に健康で快適なライフスタイルを提案する」企業であるためには、役員・従業員自身も心身ともに健康で、イキイキと働いていることが必要であると考えております。8月には、役員・従業員の健康に配慮することにより、経営面においても大きな効果が期待できる「健康経営」※2を推進するため、健康経営推進委員会を発足させ、代表取締役社長執行役員である吉田正昭が最高健康責任者（CHO）として同委員会の委員長に就任し、「ルネサンス健康経営宣言」を制定しました。

「健康経営」に関する取組については、まず、前述の健康ソリューションサービス『カラダかわるNavi』に従業員が登録し、ITを活用した健康管理の実施を開始しました。

さらに、8月に当社の従業員が出場した「第67回日本実業団水泳競技大会」においては女子団体が優勝し、また、「第55回全国実業団対抗テニス大会『ビジネスパル・テニス』」においては優勝という結果を残すことができました。従業員が、働きながら積極的に競技スポーツにも挑戦する環境を支援することは、出場選手のみならず、全従業員の「従業員感動満足」の向上に寄与することができました。

なお、当社は、ステークホルダーの皆様へ、より当社の企業活動や事業・商品・サービス内容をわかりやすくお伝えし、理解を深めていただけるよう、コーポレートサイトのビジュアル、コンテンツや内容などデザイン・構成を全面リニューアルし、9月26日に公開いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は219億26百万円（前年同期比2.4%増）、営業利益は17億53百万円（同25.7%増）、経常利益は15億82百万円（同25.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は9億89百万円（同46.0%増）と前年同期に比べ伸長しました。

※1. 業務受託施設については、従来、指定管理者制度により、当社を含むJV（企業グループ）が業務を受託した場合、当社が担当する施設のみをカウントしていましたが、今回より、JVが管理運営する全施設をカウントすることといたしました。（変更前13施設→変更後28施設）

※2. 「健康経営」は、NPO 法人健康経営研究会の登録商標です。

当社グループの報告セグメントは「スポーツクラブ運営事業」のみであるため、セグメントごとの業績については記載しておりません。以下では、より詳細な区分に分類し開示を行っております。

区分別売上高

当第2四半期連結累計期間における販売実績を各区分別に示すと、次のとおりであります。

区分	当第2四半期 連結累計期間(千円)	前年同四半期比 (%)
フィットネス部門合計	11,617,528	+1.3
スイミングスクール	3,889,722	+5.2
テニススクール	1,878,247	+0.4
その他スクール	646,670	△5.2
スクール部門合計	6,414,640	+2.6
プロショップ部門	582,514	△5.8
その他の収入(注)2	2,431,256	+2.6
スポーツ施設売上高計	21,045,940	+1.7
業務受託	434,738	+14.8
その他売上	446,080	+33.2
売上高合計	21,926,758	+2.4

(注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 「その他の収入」は、スポーツクラブ施設に付帯する駐車場、プライベートロッカー等の収入であります。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ23億25百万円増加し、329億90百万円となりました。これは主に、現金及び預金が増加したことにより流動資産合計が1億27百万円増加したこと、今後の新規出店に伴い建設仮勘定が増加したことにより固定資産合計が21億98百万円増加したことによるものです。

当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ15億76百万円増加し、245億21百万円となりました。これは主に、短期借入金が増加したことにより流動負債合計が3億65百万円増加したこと、リース債務が増加したことにより固定負債合計が12億10百万円増加したことによるものです。

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べ7億49百万円増加し、84億69百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益9億89百万円を計上したこと、前連結会計年度末配当金2億23百万円を支払ったことにより利益剰余金が7億66百万円増加したことによるものです。なお、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べて0.5ポイント増加し25.7%となりました。

(3) キャッシュ・フローの分析

当第2四半期連結累計期間において、現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の四半期末残高は13億99百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間19億1百万円（前年同期12億96百万円）

営業活動により得られた資金は、19億1百万円（前年同期比46.7%増）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益15億45百万円（同34.6%増）、減価償却費10億69百万円（同11.3%増）、法人税等の支払額6億36百万円（同3.6%増）によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間17億77百万円（前年同期20億56百万円）

投資活動に使用した資金は、17億77百万円（前年同期比13.6%減）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出16億30百万円（同21.5%減）によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間2億71百万円（前年同期9億円）

財務活動により得られた資金は、2億71百万円（前年同期比69.9%減）となりました。これは主に、短期借入金の純増加額5億円（同54.5%減）、長期借入れによる収入13億円（同13.3%減）、長期借入金の返済による支出11億55百万円（同8.8%減）、配当金の支払額2億23百万円（同24.7%減）によるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

少子化に伴う就業人口の減少、超高齢社会における社会保障費の増大等、人口動態の急激な変化に伴う社会不安が、先進諸国に先駆けて大きな課題となっております。一方、国民の健康意識の高まりとともに、スポーツ庁の発足を背景とした国のスポーツ施策の推進等により、当社を取り巻く事業環境は、大きな成長の機会を迎えております。当社は、この環境変化を新たなビジネスチャンスとして捉え、当社の事業を通じて、健康寿命の延伸に向けた様々な社会的課題の解決に取り組み、一億総活躍社会の実現への一翼を担ってまいります。

スポーツクラブ事業については、その会費収入に大きく依存しており、継続的かつ安定的な収益確保にあたっては、新規入会者の獲得はもとより、退会者の抑制が重要な要因となります。地域特性に応じた個店マーケティングと施設環境の整備を基本戦略として、お客様に「感動」していただけるサービスを提供することで、収益基盤の強化を図るとともに、一人でも多くのお客様の健康づくりやスポーツ振興に貢献することを目指してまいります。

また、当社のスポーツクラブを地域全体の健康づくりに貢献するための拠点と位置づけ、国・地方自治体及び企業や健康保険組合等が推進する健康づくりの支援に全国規模で取り組んでまいります。

新業態施設については、年齢や性別、ライフスタイル、各種ニーズ特性を明確にし、限定したターゲットを対象とした魅力のある施設を展開し、新たな成長の柱となる事業の拡大に努めてまいります。

海外市場については、ベトナムでの事業基盤確立を最優先で進めるとともに、他のアジア地域における事業展開も継続して検討してまいります。

持続的に成長を可能とする組織構築のための人材確保及び育成については、“ダイバーシティの推進”を重要な経営戦略の一つとして位置づけ、「女性向けキャリアデザイン研修」の導入、育児中社員のネットワークづくり、男性の育児休業促進等を推進し、従業員一人ひとりがワークライフマネジメントをできるよう、多様で柔軟な働き方ができる環境づくりに積極的に取り組んでまいります。また、「ルネサンス健康経営宣言」のもと、「健康経営」の推進にも取り組んでまいります。

以上の他、引き続き、コーポレートガバナンスの更なる充実を図り、全てのステークホルダーの「生きがい創造」に貢献できるよう、持続的に企業価値向上に努めてまいります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	52,400,000
計	52,400,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年11月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	21,379,000	21,379,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	21,379,000	21,379,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年9月30日	—	21,379,000	—	2,210,380	—	2,146,804

(6) 【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
D I C株式会社	東京都板橋区坂下3丁目35-58	3,742	17.50
三菱地所株式会社	東京都千代田区大手町1丁目6番1号	1,419	6.63
ルネサンス従業員持株会	東京都墨田区両国2丁目10-14 両国シティコア3階	563	2.63
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	452	2.11
斎藤 敏一	千葉県船橋市	350	1.63
斎藤フードアンドヘルス株式会社	東京都墨田区両国2丁目10-14	188	0.87
小見山 将治	千葉県千葉市若葉区	150	0.70
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL (常任代理人 ゴールドマン・ サックス証券株式会社)	133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB U.K. (東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー)	149	0.69
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	148	0.69
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口5)	東京都中央区晴海1丁目8-11	112	0.52
計	—	7,275	34.03

- (注) 1. 所有株式数千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点第3位以下は切り捨てて表示しております。
3. 日本トラスティ・サービス信託銀行(株)、日本マスタートラスト信託銀行(株)の所有株式は、信託業務に係るものであります。
4. 上記のほか当社所有の自己株式6,458千株(30.20%)があります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 6,458,400	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,919,200	149,192	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 1,400	—	同上
発行済株式総数	21,379,000	—	—
総株主の議決権	—	149,192	—

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が100株(議決権1個)含まれております。

2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、自己保有株式20株が含まれています。

② 【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ルネサンス	東京都墨田区両国2丁目 10-14	6,458,400	—	6,458,400	30.20
計	—	6,458,400	—	6,458,400	30.20

2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の変動は、次のとおりであります。

役職の変動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
代表取締役社長執行役員 全社戦略担当 最高健康責任者(CHO)	代表取締役社長執行役員 全社戦略担当	吉田 正昭	平成28年7月1日

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,002,546	1,379,874
売掛金	1,012,790	875,401
商品	200,220	208,048
その他	1,863,017	1,742,280
貸倒引当金	△10,131	△10,030
流動資産合計	4,068,443	4,195,574
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,879,226	7,074,563
リース資産（純額）	6,039,628	7,160,525
その他（純額）	2,807,951	3,594,977
有形固定資産合計	15,726,806	17,830,066
無形固定資産	917,504	887,924
投資その他の資産		
敷金及び保証金	8,174,563	8,271,495
その他	1,778,002	1,805,743
投資その他の資産合計	9,952,565	10,077,238
固定資産合計	26,596,876	28,795,230
資産合計	30,665,320	32,990,804
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	194,046	251,222
短期借入金	1,300,000	1,800,000
1年内返済予定の長期借入金	2,165,000	2,280,000
未払法人税等	735,446	606,320
賞与引当金	835,920	795,020
資産除去債務	44,466	12,403
その他	3,931,636	3,827,402
流動負債合計	9,206,516	9,572,370
固定負債		
長期借入金	5,610,000	5,640,000
リース債務	5,965,801	7,040,020
退職給付に係る負債	532,088	550,593
資産除去債務	903,546	938,465
その他	726,773	779,738
固定負債合計	13,738,209	14,948,817
負債合計	22,944,725	24,521,187

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,210,380	2,210,380
資本剰余金	2,756,974	2,756,974
利益剰余金	8,247,801	9,013,820
自己株式	△5,495,999	△5,495,999
株主資本合計	7,719,155	8,485,175
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,796	3,335
為替換算調整勘定	15,175	△4,980
退職給付に係る調整累計額	△16,533	△13,913
その他の包括利益累計額合計	1,438	△15,558
純資産合計	7,720,594	8,469,616
負債純資産合計	30,665,320	32,990,804

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	21,417,691	21,926,758
売上原価	19,053,661	19,091,227
売上総利益	2,364,030	2,835,530
販売費及び一般管理費	※ 968,436	※ 1,081,879
営業利益	1,395,593	1,753,651
営業外収益		
受取利息	13,746	12,668
受取手数料	57,152	60,378
その他	12,672	10,176
営業外収益合計	83,570	83,223
営業外費用		
支払利息	147,806	140,514
為替差損	41,118	94,661
その他	25,453	19,604
営業外費用合計	214,378	254,780
経常利益	1,264,786	1,582,094
特別損失		
固定資産除却損	15,566	12,558
減損損失	50,275	10,151
店舗閉鎖損失	50,332	—
災害による損失	—	10,073
その他	101	3,677
特別損失合計	116,275	36,461
税金等調整前四半期純利益	1,148,510	1,545,632
法人税、住民税及び事業税	470,359	469,537
法人税等調整額	174	86,267
法人税等合計	470,533	555,804
四半期純利益	677,977	989,828
親会社株主に帰属する四半期純利益	677,977	989,828

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	677,977	989,828
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	315	538
為替換算調整勘定	2,124	△20,155
退職給付に係る調整額	3,982	2,620
その他の包括利益合計	6,422	△16,997
四半期包括利益	684,399	972,831
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	684,399	972,831
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,148,510	1,545,632
減価償却費	961,135	1,069,517
減損損失	50,275	10,151
店舗閉鎖損失	50,332	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	24,394	22,280
長期未払金の増減額 (△は減少)	△18,107	57,875
賞与引当金の増減額 (△は減少)	23,696	△40,900
固定資産除却損	15,566	12,558
受取利息及び受取配当金	△13,779	△12,716
支払利息	147,806	140,514
売上債権の増減額 (△は増加)	151,461	137,388
たな卸資産の増減額 (△は増加)	8,411	20,801
前払費用の増減額 (△は増加)	△57,900	△68,502
仕入債務の増減額 (△は減少)	50,067	57,176
未払金の増減額 (△は減少)	△106,915	△259,998
未払費用の増減額 (△は減少)	△943	△34,703
前受金の増減額 (△は減少)	103,637	81,948
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△452,017	△102,445
その他	△27,076	42,360
小計	2,058,555	2,678,940
利息及び配当金の受取額	195	411
利息の支払額	△148,290	△141,299
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△614,315	△636,138
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,296,143	1,901,913
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	—	△32,500
有形固定資産の取得による支出	△2,077,085	△1,630,139
無形固定資産の取得による支出	△28,425	△88,232
敷金及び保証金の差入による支出	△40,392	△223,785
敷金及び保証金の回収による収入	16,347	168,537
その他	73,478	29,025
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,056,077	△1,777,094
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,100,000	500,000
長期借入れによる収入	1,500,000	1,300,000
長期借入金の返済による支出	△1,266,000	△1,155,000
リース債務の返済による支出	△136,441	△149,936
配当金の支払額	△297,391	△223,876
財務活動によるキャッシュ・フロー	900,166	271,186
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,124	△20,155
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	142,357	375,849
現金及び現金同等物の期首残高	659,382	1,023,428
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 801,739	※ 1,399,277

【注記事項】

(会計方針の変更等)

当社は、法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ16,923千円増加しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
従業員給料及び賞与	235,659千円	249,325千円
賞与引当金繰入額	66,094千円	74,109千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
現金及び預金	780,662千円	1,379,874千円
預け金(流動資産その他)	21,077千円	19,403千円
現金及び現金同等物	801,739千円	1,399,277千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月26日 取締役会	普通株式	298,412	20.00	平成27年3月31日	平成27年6月26日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年10月29日 取締役会	普通株式	149,206	10.00	平成27年9月30日	平成27年12月10日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月25日 取締役会	普通株式	223,808	15.00	平成28年3月31日	平成28年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年10月28日 取締役会	普通株式	193,967	13.00	平成28年9月30日	平成28年12月9日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループの報告セグメントが「スポーツクラブ運営事業」のみであるため記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	45.44円	66.34円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	677,977	989,828
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	677,977	989,828
普通株式の期中平均株式数(千株)	14,920	14,920

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第35期（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）中間配当について、平成28年10月28日開催の取締役会において、平成28年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- | | |
|----------------------|------------|
| ① 配当の総額 | 193,967千円 |
| ② 1株当たりの金額 | 13円00銭 |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 平成28年12月9日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月7日

株式会社ルネサンス
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	北	方	宏	樹	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	木	村	彰	夫	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ルネサンスの平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ルネサンス及び連結子会社の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】 確認書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の8第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年11月8日

【会社名】 株式会社ルネサンス

【英訳名】 RENAISSANCE, INCORPORATED

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長執行役員 吉 田 正 昭

【最高財務責任者の役職氏名】 常務執行役員最高財務責任者 安 澤 嘉 丞

【本店の所在の場所】 東京都墨田区両国二丁目10番14号

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長執行役員吉田正昭及び常務執行役員最高財務責任者安澤嘉丞は、当社の第35期第2四半期（自平成28年7月1日 至 平成28年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

